

地区中学校総体 陸上競技の部

八月二十九日(土)に小田原・足柄下地区中学校総合体育大会陸上競技の部が小田原城山陸上競技場で行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止措置として、他の競技と同様、出場選手の人数を絞り、無観客での実施となりました。

応援の発声も禁止であったため、静寂の中を駆け抜ける各校の選手の足音や息遣いが広い競技場の中に響き渡っていました。

三年

自分は陸上競技が好きなので、大会に出場し、千五百メートル走に挑戦しました。大会に向けた練習で初めて千五百メートルを走ったときは、自分が思っていた記録にまったく届きませんでした。その次の日は少し記録がよくなったもの



の、その後は、いい記録が出ることはありませんでした。そんな中、大会当日を迎えましたが、一位の選手とあまり差のない記録を出すことができませんでした。次はもっと練習して、四分台の記録をめざしたいです。

伝統を受け継ぐ

はやいもので、令和二年度も後期に入ります。これまで、三年生が中心になって、生徒会活動をすすめて、伝統ある真鶴中学校を支えてきました。後期からは、二年生にそのバトンが受け継がれます。もちろん、そうは言ってもなかなか難しいことですから、二年生だけでなく、三年生と一年生とともに、新たな伝統を築いていきましょう。

〈学校全体への貢献〉

二年

そうじのときに、今まで以上にキレイにして、みんなが過ごしやすい



学校にする。また、学校のものを大切に扱う。

二年

二年後期だから、そろそろ自分たちが真鶴中を支えていかなければと思います。自分はさまざまな活動で真鶴中全体に貢献したいです。

秋の夜長

十月一日は、「中秋の名月」です。

「中秋」とは、秋の中でちょうど真ん中の日を指しますが、ここでいう「秋」とは、太陽太陰暦による秋のことです。昔の日本では月の満ち欠けと太陽の動きを基にした太陰太陽暦という暦を作り、農業や暮らしに役立てていました。いわゆる旧暦のことです。

今年の十月一日は旧暦でいうと八月十五日にあたります。旧暦では一月〜三月を春、四月〜六月を夏、七月〜九月を秋、十月〜十二月を冬とし、秋(七月〜九月)の中で、ちょうど真ん中の日である八月十五日の晩に上がる月のことを「中秋の名月」と呼んで、月を愛でるようにになりました(ただ、必ずしも満月とは限りません。満月は翌日の十月二日です)。



何百年も前の人たちも、同じ夜空や月の景色を眺めていたと思うと不思議な感じがします。「中秋の名月」は「十五夜のお月さま」や「芋名月」と呼ばれることもありますが、「十三夜(栗名月)」「豆名月」も含めて、のんびりと月を愛でてみたいものです。

学習活動発表会について

本年度の学習活動発表会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止にかかる措置として、保護者や地域の皆さまの参観はご遠慮いただいたうえで実施することとしました。例年、多数の保護者や地域の皆さまに生徒の活動の様子や成果をご覧いただき、本校の教育活動をご確認いただくとともに生徒への温かい言葉をいただいているところですが、今般の状況をふまえ、ご理解ご協力くださるようお願いいたします。なお、保護者の皆さまには、九月二十三日付文書により詳細をご確認ください。よろしくお願いいたします。